

ジャンル 新聞

内容

「キャンドル 年末年始を演出」という記事で、キャンドルの楽しみ方が紹介されました。社名も掲載されています。



これがキャンドル？かわいいデザインがいっぱい...

キャンドル

キャンドルの明かりが見直されている。年末年始を控え、どんなキャンドルを使い、どのように演出するとよいか、カメヤマキャンドルハウス（東京）に尋ねた。

【カラフル】
パーティーの多い季節に重宝するのが、透明度の高いポリカーボネート製のカラフルなカップに入ったキャンドル。直径4センチ、高さ22センチと大きくないが、燃焼時間は5時間ほどで、赤、ピンク、青、緑、黄に明かりが色づき、時が経つほど、ろう全体が溶けて透明な液状になり、明るさを増す。

年末年始を演出

これを凹凸のある透明なガラス製ホルダーに入れると、光が反射、屈折し、テーブルに花火のような光の輪が広がり華やか。クリスマスなら赤と緑、カフェ風なら黄色と色の演出を。カットの異なるホルダーに換えると、光の量や陰影が変化し、違った模様を築しめる。ホルダーが二重のガラスで、内側のガラスに描かれたサンタや雪の結晶、月、星などシルエットが炎にちらちら映し出されるものは、季節に合わせた雰囲気作りに役立つ。

【モチーフ】
そのままインテリアになるのが、ツリーや動物、マッポックリ、ケーキやマカロンなどモチーフをあしらったキャンドル。パウダー

状のキャンドルや砂、ピースを大皿に敷き、色違いのツリーを2〜3個、ウサギやリンゴのキャンドルを並べると、森のイメージになる。

バラの花が水中に開いた縦長のグラスに、キャンドルを浮かべられるセットも、そのままゴージャスなオブジェになり、安全性も高い。

【おいしく】
炎の明かりで、おいしく見せるコツは、料理の少し上から照らすこと。例えば、20センチくらいの高さの柄付きグラスにキャンドルをともし、テーブルに置く。あまり高すぎると、お互いの顔が見えにくくなるので注意する。また、炎はガラスによく映えるので、意識してガラスの食器を使うとよい。料理の味を損ねないよう、必ず無香料のキャンドルを。

